

『水田文庫貴重書目録』 — 社会思想史学確立の記念碑

“The Mizuta Library of Rare Books in the History of European Social Thought :
A Catalogue of the Collection Held at Nagoya University Library”
— A monument of establishing historical studies of social thought.

名古屋大学高等研究院長 経済学研究科教授

Director, Institute for Advanced Research; Professor, Graduate School of Economics Nagoya University

安藤 隆穂

ANDO, Takaho

『水田文庫貴重書目録』は、水田洋博士の個人蔵書のうち、名古屋大学に寄贈または売却された11,200冊以上の中から、貴重書（1850年以前）約2,200冊を編集したものである。ここには、近代社会観成立史に関連する貴重な文献が、イギリスのみならず、大陸の広い諸地域にわたって、ロマン主義の時代まで集められている。水田文庫の貴重書群は、日本国内のみならず、海外でも所蔵がないものも多く、今日の欧米の研究者にとっての稀覯本も多く含まれている。今回、英文による目録が、坂本達哉慶応義塾大学教授によるすぐれた「英文序文」付きで公刊され、「水田文庫」の存在が内外の研究者にとって一層親しみやすくなったことは、思想史研究者として大きな喜びである。

本目録は次のような特徴も持つ。国立情報学研究所のオンライン目録（NACSIS-CAT）に登録されたデータを基に、冊子体目録として編纂されたもので、著者のアルファベット順に配列され、書名索引がついている。書誌的な研究の利用に耐えられるよう、「版や刷り」の違いはもとより、旧所蔵者がわかるような蔵書票、描き込み、署名についても、可能な限り詳細な書誌記述がされている。水田教授の資料収集の特徴がわかるよう、欠頁や欠号もありのままに記述されている。なお、編集者の中井えり子氏は、名古屋大学附属図書館研究開発室の研究員で、2010年度から水田文庫を

はじめ、西洋古典籍の整備を担当している。

貴重書をふくむ水田蔵書の全体は、社会思想史研究の必要上個人的に集められたのであって、一橋大学所蔵の「メンガー文庫」や小樽商科大学所蔵の「シェル文庫」および「手塚文庫」などと同系列に属するだろう。しかし、「水田文庫」には、社会思想史が戦後確立をみる若い学問であり、研究者個人が必要文献の発見に多大の努力を払わねばならないという時代環境の中で収集されたという特徴がある。「水田文庫」は、単純に貴重な古典と研究文献の集成群にとどまるものではない。「水田文庫」の収集過程とその内容を知ることは、日本における社会思想史の学問としての成立と発展を文献学的に検証することになるのである。

『水田文庫貴重書目録』のそれぞれの著作を、「水田文庫」さらには水田蔵書全体の中において、いわば「社会思想史の思想史」文献として読むことは、今後一層重要となるだろう。そのためには、水田蔵書の全体像をつねに自覚することが必要であろう。

水田蔵書全体には洋書約2万冊があり、そのうち、約7,000冊が名古屋大学「水田文庫」となり、今回の目録にある「貴重書」約2,200冊の他、約4,800冊がまとめて別置され、残りの約4,000冊が蔵書票（水田珠枝と連名）付きで分散収蔵されている。また、名古屋大学中央図書館は、「水田文庫」

に密接につながるものとして、水田博士自身とその関係者が収集した特殊コレクション類を保持し、「ホップズ・コレクション」I、II、(III)、「スペイン市民戦争関連資料」、「18世紀フランス自由思想家コレクション」などがあり、経済学部図書室は「イギリス革命関係文献コレクション」を持つ。さらに、水田博士が購入に尽力した、『ブリタニカ』初版、書き込み付きコールリッジ所蔵本『蜂の寓話』（1724年版）などの稀覯本がある。

和書のうち、約2,400冊は、海を渡り寄贈され、中国浙江大学水田文庫として、現在整理作業が進んでいる。このことは、中国の思想状況が、水田博士の社会思想史研究に、深い関心を持ち始めたことを示すものである。

今も手元に置かれているのは、水田博士自身が現在の研究主題にとって必要とするホップズ関連資料、ロマン主義およびマルクス主義関連文献であり、これらの資料は遺贈されることとなっている。

また、「水田文庫」の蔵書票が水田珠枝博士との連名になっているように、水田蔵書の全体は水田洋・珠枝夫妻の共有である。水田珠枝博士は日本の女性解放思想史学の開拓者であり、その多くの収集文献が自宅所蔵となっているが、近い将来名古屋大学に寄贈される。名古屋大学は、女性解放思想史研究の記念碑も保持することとなる。

水田洋博士は、1919年に生まれ、日本軍国主義の嵐の中に、自由な文学的自己表現、民主主義、

社会主義を求めて、思想史研究を開始しました。そうして、社会思想史研究の基調が「近代的個人主義」あるいは「ラディカルな民主主義」にあり、思想の生命力が「反対系・反体制」であるという確信は、今日まで揺らぐことはありませんでした。このような独自の方法意識による社会思想史研究は、日本発の学問として、今後、欧米のみならずアジア圏から注目を集めると確信します。「水田文庫」が社会思想史学確立の歴史的記念碑として大切にされていくことを願います。

『水田文庫貴重書目録』

中井えり子・編
坂本達哉・序文

The Mizuta Library of
Rare Books in the History
of European Social
Thought: A Catalogue of
the Collection Held at
Nagoya University
Library.

Edited by Eriko Nakai & preface by Tatsuya Sakamoto.
Tokyo, Edition Synapse; Abingdon, Routledge, 2014.
xxxv, 315 p., [2] p. of plates : ill. (some col.), facsim.
(some col.), col. port. ; 27 cm.

ISBN : 978-4-86166-191-4

150部限定 ハードカバー 定価 32,184円(税込)
販売元 株式会社極東書店

